

第8回都留市男女共同参画推進フェスティバル開催

都留市男女共同参画推進委員会

日時 3月6日(日) 午後1時より
場所 びやあ富士大研修室 他

内容 『都留市の男女共同参画の現状
とこれからの課題』

講師 都留文科大 大辻千恵子教授

○分科会

テーマ「どうなっているの? どうしたいの?これからの都留市」

①地域 ②家庭 ③職場

○全体会

本年度実施した男女共同参画に関するアンケート調査の結果に基づき、地域、家庭、職場における現状を把握し、新たなプラン策定に向けて、今何が求められているのかを語り合い、共通理解を深めるためのフェスティバルです。



◎入場無料 申し込み不要(性別、年齢問わず、どなたでもご自由にご参加ください。)

※託児あり

3日前までに申し込んでください(無料)

◎主催

都留市

都留市男女共同参画推進委員会

都留市女性団体連絡協議会



昨年度都留市が作成したビデオ「受け継がれる祭りの心」を見た。八朔祭りから始まり各地区のお祭りが紹介されている。その中で目を引いたのは、いくつかの祭りの子どもたちの姿である。子ども御輿はもちろんであるが、伝統芸能の分野でも八朔屋台のお囃子、祭礼の巫女舞、神楽の獅子舞、笛、太鼓など小学生・中学生が活躍しているものはいくつかあった。

私が勤務する地区でも二つの神社のお祭りに小学生が参加している。一つは稲村神社で小学校高学年女子の「巫女舞」と男子の「獅子舞」。もう一つは三島神社で小学生の「獅子舞」。ここでは「笛」と「太鼓」も小学生が参加している。早い子では小学校低学年の頃から稽古を始めているそうだ。

祭りの当日は晴れの舞台ということで、巫女さんの衣装や祭りの法被を身にまとい、それぞれの分担任で子どもたちは生き生きと活動していた。学校ではおとなしい子が堂々と神楽を舞ったり演奏し

たり、獅子が生きているかのように立派な舞を見せてもらったりするとうれしくなってくる。舞方も囃子方も真剣そのもので、ちよつと恥ずかしそう、ちよつと得意そう



いい表情をしている。ふだん学校で見せている顔とは少し違う。見ている大人達の眼差しも温かい。獅子舞が終わるとすぐ、私の肩をポンとたたいて「うまいら?」と声をかけてくれたおじさんの得意そうな嬉しそうな顔が忘れられな

い。子どもたちをここまで習得させるのは、地域の方々の指導によるものであるが、子どもたちでも音が出やすい笛を探して購入したり、覚えやすいように譜に表したりなど様々な工夫をしているのだそうだ。今様々な伝統芸能で後継者不足が問題となっているが、このような地域の努力が必要なのだろう。

地域にはそれぞれの分野で名人がいて、子どもたちに教えてくれる。神楽の練習では近所のおじさんが師匠になる。大人達は子どもたちを「祭りをつくる同土」という温かい眼で見えてくれる。子どもたちにとって伝統芸能を引き継ぐ事は大切な使命であるが、それ以上に、その過程での大人との関わりが得難い経験であると思う。親以外の大人と「同じ目的を持って関わる」という場面は他にはほとんど無いだろう。

お祭りを通して、子どもたちが大人と関われる地域が、まだ都留市にはたくさんある。そういう恵まれた地域では、多くの子どもたちに参加してほしい。自分を表現できる場所、自分を認めてくれる場所、はたくさんあった方がいい。